

メニエール病

女性 六十二歳 専業主婦

主訴 めまい

現病歴 二十年位前にメニエール病と診断される。それ以前、趣味でフランス刺繍を習い始める。今回、八日前よりめまい、吐気発現、三日間入院。それ以降、めまい、吐気の薬四種類服用。食欲もあまりない。十三年前に子宮筋腫手術。他に腎結石、鼻タケ。

所見 細。胸鎖乳突筋及び脊柱起立筋硬化強し。行間(+) 腹証特になし。

治療 扁桃処置、骨盤虚血処置、肝経実処置、帯脈、丘墟 - 四瀆の処置をする。耳のメマイ点に皮内鍼。

経過 二回目(三日目) 今日までふらつきなし、同前処置。
三回目(七日目) クスリを三回から二回に減らす。
四回目(十日目) 昨晚眠りが悪く、気分がすぐれないが、めまいはない。細やや遅。
五回目(十四日目) 気分も大分よく、食欲も出てきた。めまいの薬一種類(血流改善剤)だけにする。細消失。
六回目(二十二日目) 大分良くなり、体が軽くなる。
七回目(二十八日目) クスリを日に一回半錠にする。扁桃、帯脈、丘墟 - 四瀆。
九回目(四十二日目) フワ - とする感じはなく、食欲もいい、細は消失している。行間(-) 胸鎖乳突筋緊張、これは二十年来の刺繍のためで簡単にはとれない。同前処置。以後めまいの訴えはなく、現在他の症状で加療中。

考察 彼女はメニエールがでる以前からフランス刺繍を始め、その上読書家ときており、胸鎖乳突筋から脊柱起立筋は緊張硬化を乗り越して隆起している。それと肝の火穴、行間に圧痛が著明にでている。

彼女にまず、刺繍と読書をしばらくの間、やめてもらいたいことを話す。彼女は素直に私のいうことをきいてくれた。彼女の生活を正す所から始めた。

治療の説明をする前に、めまいをおこす疾患を挙げてみます。

めまいは大別して、真性めまい(回転性めまい)と仮性めまい(めまい感)に分けられる。

真性めまいはさらに、内耳性めまいと中枢性めまいに分けられる。

内耳性めまいの中には、メニエール病、良性発作性頭位眩暈症、前庭神経炎等。中枢性は脳血管障害、脳腫瘍などが入る。

仮性めまいは回転というより、フラフラや立ちくらみの方が強く、血液循環障害、血圧異常、貧血、自律神経失調、起立性調節障害、心身症、薬物中毒などにみられる。

実際はこの通りとは限らないが、めやすと覚えてもらいたい。

この患者のめまいは、真性めまい(回転性)の中でも内耳に原因のある代表的なメニエール病である。

これは平衡感覚を司る三半規管の中に内リンパ液が満たされているが、これが何らかの原因で異常に増え、内耳神経を刺激して発症する。

この患者を治療する上で大きな指針になったのが細脈で、この脈は血虚や骨盤虚血を意味し、この処置(治療システムでは血管系)をすることによって血液循環が良くなり、

細が消失していった(十四日目)ということは全身の血液循環、とりわけ脳の血液循環の改善につながった結果、内リンパ液の流れが改善され、内耳神経への圧迫がとれて、めまいが治まっていったのではないかと思います。

それと、肝経実処置は目の循環や筋肉の緊張をほぐし、筋緊張緩和処置(治療システムでは筋肉系)の丘墟 - 四瀆は大脳皮質運動野に刺激を送って、対側の緊張を和らげるわけですから、これも奏効の一翼を担ったものと考えています。